

高城町文化財調査報告書 第12集

# 様ヶ野遺跡

九州電力株式会社宮崎幹線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2002

高城町教育委員会

## 序

本報告書は九州電力株式会社が行っている宮崎幹線新設工事に先立ち実施いたしました様ヶ野遺跡発掘調査の記録です。

今回の調査では縄文時代の集石遺構のほか、剥片が一ヵ所に集められた石材集積などが出土しました。これらの出土は当地域の縄文時代の様相を考える上で貴重な資料になると思われます。

また、この報告書が学校教育・生涯学習においてそれぞれの形で用いられ、地域に対する関心を深める手助けとなれば幸いです。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜りました各関係機関並びに町民各位の皆様方に心から深く感謝を申し上げます。

平成14年5月

高城町教育委員会

教育長 内田國昭

## 例　言

- 1 本書は高城町教育委員会が平成13年3月6日から7月28日にかけて、宮崎県北諸県郡高城町大字四家字様ヶ野1182番地2、1106番地3において実施された埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 当発掘調査は九州電力株式会社宮崎幹線新設工事に伴うものであり、発掘調査から報告書作成にかけての一切の業務は高城町教育委員会が委託を受けて実施した。
- 3 この発掘調査の主体者及び担当者は次のとおりである。  
　　主体者 高城町教育委員会  
　　担当者 近沢恒典
- 4 本書の執筆及び編集は下記の者が行った。全体の責は担当者が負うものである。  
　　近沢恒典（高城町教育委員会社会教育課主事）
- 5 遺構・遺物の実測及び遺構写真、遺物写真の撮影は近沢恒典が行った。
- 6 報告書作成にあたり出土石器について桑畠博光、栗山葉子の両氏（都城市教育委員会）、出土土師器について桑畠博光氏（都城市教育委員会）、出土近世陶磁器について横山哲英氏（都城市教育委員会）、また他に矢部喜多夫氏（都城市教育委員会）よりご教授、ご助言をいただいた。
- 7 記録類や出土遺物は高城町教育委員会に保管している。

## 本文目次

I	はじめ	1
1	発掘調査に至る経緯	1
2	調査の組織	1
II	調査の概要	2
1	遺跡の立地と環境	2
2	調査の方法及び経過	2
3	遺跡の層序	5
III	調査の記録	6
1	1区の調査	6
2	2区の調査	16
IV	まとめ	18

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	3
第2図	発掘調査区域図	4
第3図	全土層図	5
第4図	1区VI層上面遺構分布図	6
第5図	集石遺構実測図	7
第6図	石材集積実測図	8
第7図	石材集積出土剥片実測図	8
第8図	1区V層遺物分布図	9
第9図	1区出土土器拓影図1	10
第10図	1区出土土器拓影図2	11
第11図	1区出土石器実測図	12
第12図	1区出土土師器実測図	13
第13図	1区出土陶磁器実測図	13
第14図	1区アカホヤ上面遺構分布図	14
第15図	1区出土土坑実測図	15
第16図	2区出土土器拓影図	16
第17図	2区出土石器実測図	16

第18図	2区アカホヤ上面遺構分布図	17
第19図	2区出土土坑実測図	17

## 図版目次

図版1	(1) 遺跡遠景(1区西から)	(2) 発掘作業風景		
図版2	(1) 集石遺構出土状況	(2) 集石遺構配石出土状況	(3) 石材集積出土状況	
	(4) 1区V層遺物出土状況	(5) 1区VII層上面全景		
図版3	(1) 1区アカホヤ上面全景	(2) 土師器出土状況	(3) 1号土坑	
	(4) 2号土坑	(5) 3号土坑	(6) 4号土坑	
図版4	(1) 全土層(1区B-C)	(2) 2区VII層上面全景		
図版5	(1) 2区アカホヤ上面全景	(2) 1号土坑	(3) 2号土坑	(4) 3号土坑
図版6	(1) 1区出土土器-1	(2) 1区出土土器-2		
図版7	(1) 1区出土土器-3	(2) 1区出土土師器-1		
図版8	(1) 1区出土土師器-2	(2) 1区出土陶磁器	(3) 1区石材集積出土剥片	
図版9	(1) 1区出土石器-1	(2) 1区出土石器-2	(3) 1区出土石器-3	
	(1) 1区出土剥片	(5) 2区出土土器	(6) 2区出土石器	

## I はじめに

### 1 発掘調査に至る経緯

平成12年度、宮崎幹線新設工事を進めている九州電力株式会社より、送電線鉄塔建設予定地について社会教育課に照会があった。「町内遺跡分布詳細報告書」（高城町教育委員会 1998）において様ヶ野遺跡として記録されており、埋蔵文化財の取扱いについて協議を進め、試掘調査を実施した。その結果をうけ、発掘調査を実施する方向で協議を重ね、平成13年3月1日付けで発掘調査に関する協定書が九州電力株式会社と高城町との間で締結された。

この協定書に基づき平成13年3月5日付けで九州電力株式会社と高城町との間で、発掘調査の業務委託契約書が締結され、平成13年3月6日より平成13年7月28日にかけて発掘調査が実施された。

### 2 調査の組織

様ヶ野遺跡の調査組織は以下のとおりである。

調査主体 高城町教育委員会

教 育 長 内 田 國 昭

社会教育課長 江内谷 満 義

同 課 長 補 佐 田 中 孝 明 (平成12年度)

同 課 長 補 佐 中 村 敏 和 (平成13年度)

同 主 任 主 査 佐 藤 潤 子 (平成13年度庶務担当)

同 主 査 白 谷 健 一

同 主 事 近 沢 恒 典 (調査担当)

発掘調査参加者（敬称略 順不同）

白谷 健一	近沢 恒典	北野 武春	黒木トミ子	黒木 征子
古川 清秀	久保 留美	亀岡 敏盛	関 利光	関 光子
関 郁子	関 ツユ子	岡本 祐次	永峰トシ子	永井 義昭
榎木崎時男	大古殿 功	柳田 松美	柳田 和美	関 フサ
永徳 正一	鎌田 弘子	窪田エミ子	増元 詩子	有屋田周一
松木 エヲ	中別府ルリ子	長谷 征子		

## II 調査の概要

### 1 遺跡の立地と環境

様ヶ野遺跡は高城町大字四家字様ヶ野に所在する。高城町は宮崎県の南西部、鹿児島県との県境である都城盆地の北東部に位置する。南部は都城盆地へと広がる平野部であり、北部は南那珂山地に属する山間部となり、1市5町に囲まれ南北に長い町域を形成している。

本遺跡は高城町の北部、高岡町との町境に近い山間部に位置し、北流し大淀川へとそそぐ穴水川の西岸、標高165～175mの台地上に立地する。地形は台地東側から西に向かい傾斜し、西端は谷へと落ちる急崖となる。「町内遺跡分布詳細報告書」（1998高城町教育委員会）では縄文時代・弥生時代の土器散布地として、南北約400m、東西約400mの台地上のほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地として記録されている。

穴水川沿いの台地上には多数の遺跡が連なっており右岸では北より、大淀川との合流点に位置する平八重城址、平八重第3・4遺跡、雀ヶ野第1・2遺跡、椿遺跡、様ヶ野遺跡、蓑野第1・2・3遺跡、左岸では井ノ城第1遺跡、後屋敷遺跡、中原第1遺跡、大開遺跡、蕨ヶ野第1・2遺跡が確認されている。

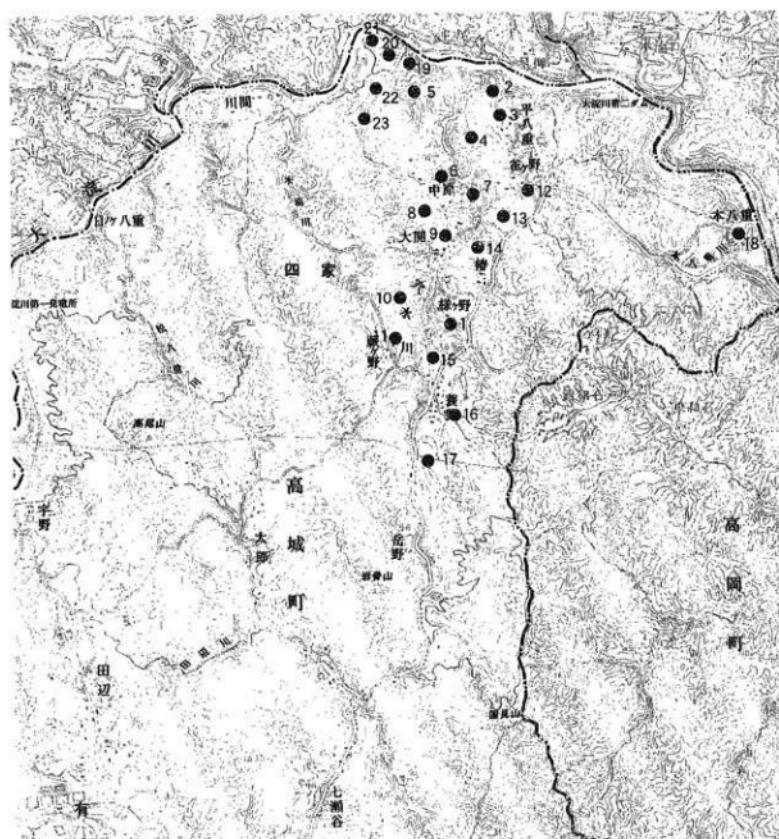
### 2 調査の方法及び経過

調査対象地は様ヶ野台地の中央部のほぼ東端と西端とに計画された第172号鉄塔、第173号鉄塔の2箇所で、面積はそれぞれ780m<sup>2</sup>、990m<sup>2</sup>であった。第172号鉄塔建設予定地を2区、第173号鉄塔建設予定地を1区とし、本工事着工時期の関係から1区→2区の順で調査を実施した。

調査の方法は重機で表土を除去した後、人力で遺構確認、遺物の採取作業を行い、測量、写真撮影を行った。

1区において発掘調査着手前は牛蒡、煙草等の畑地として利用されており、トレンチャーや天地返しによる搅乱が一部はアカホヤ火山灰の下層にまでおよんでいた。アカホヤ火山灰より上の包含層及び搅乱部分から土師器、近世陶磁器が出土し、アカホヤ火山灰上面より土坑4基が出土した。褐色土1・2より縄文時代早期の土器片、石器、剥片、チップが出土し、遺構は集石遺構1基、石材集積1基が出土した。

2区においてはアカホヤ火山灰上面より土坑が3基出土した。褐色土1・2からは縄文時代早期の土器片、チップ、水晶が出土した。



第1図 遺跡位置図

- |            |          |            |            |
|------------|----------|------------|------------|
| 1・様ヶ野遺跡    | 2・平八重城址  | 3・平八重第3遺跡  | 4・平八重第4遺跡  |
| 5・井ノ城第1遺跡  | 6・後屋敷遺跡  | 7・中原第1遺跡   | 8・中原第2遺跡   |
| 9・大間遺跡     | 10・蕨ヶ野遺跡 | 11・蕨ヶ野第1遺跡 | 12・雀ヶ野第1遺跡 |
| 13・雀ヶ野第2遺跡 | 14・椿遺跡   | 15・蓑野第1遺跡  | 16・蓑野第2遺跡  |
| 17・蓑野第3遺跡  | 18・本八重遺跡 | 19・井ノ城第1遺跡 | 20・井ノ城第3遺跡 |
| 21・井ノ城第4遺跡 | 22・井ノ城址  | 23・井ノ城第5遺跡 |            |

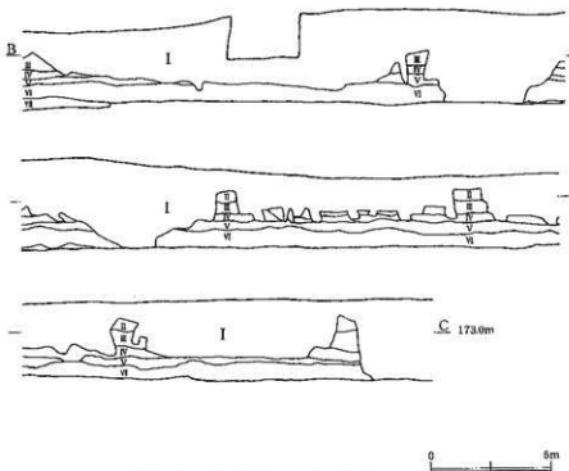


第2図 発掘調査区域図

### 3 遺跡の層序

調査以前は両調査区とも牛蒡、煙草等の畑地として利用されておりⅡ層・アカホヤ火山灰二次堆積層より上はほぼ全てが削平されていた。またトレンチャーや天地返しによる攪乱がⅢ層・アカホヤ火山灰、また一部はⅦ層にまでおよんでいたが、Ⅳ層以下の土層の堆積はおおむね良好であった。2区においては10～13世紀に霧島の御鉢より噴火した火山灰とされている高原スコリアが耕作土直下に、耕作及び攪乱により大部分が削られた状態で数箇所に薄く確認されている。

- I層 耕作土及び攪乱
- II層 アカホヤ火山灰二次堆積層
- III層 アカホヤ火山灰
- IV層 カシワバン
- V層 褐色土：硬く良くしまる。縄文時代早期の包含層である。
- VI層 褐色土：硬い。V層に比べ若干柔らかく、やや明るい。
- VII層 暗褐色土：小林軽石をブロック状に多く含む。



第3図 全土層1区 B-C (1/100)

### III 調査の記録

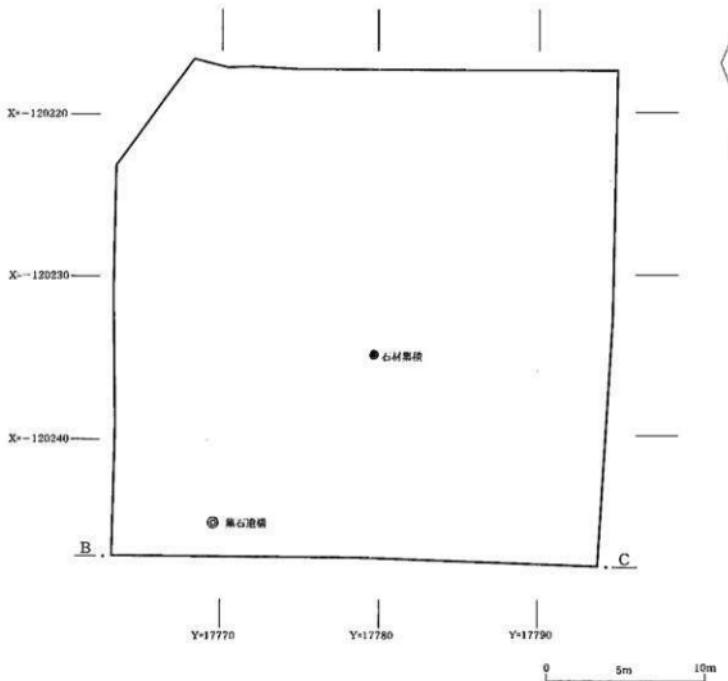
#### 1 1区の調査

##### (1) 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構はVI層より集石遺構1基、石材集積1基が出土した。

集石遺構は主に10cmほどの砂岩質の礫343個で構成される。その大半は熱を受け赤変している。長軸35.0cm、短軸20.0cmの範囲に礫が散った状態で検出された。直径6.5cm、深さ2.5cmの明確な掘込みをもち、掘込みには側壁に沿って2.0~3.0cm程度の角礫が配されている。配石の中央部には角礫は配されていなかった。

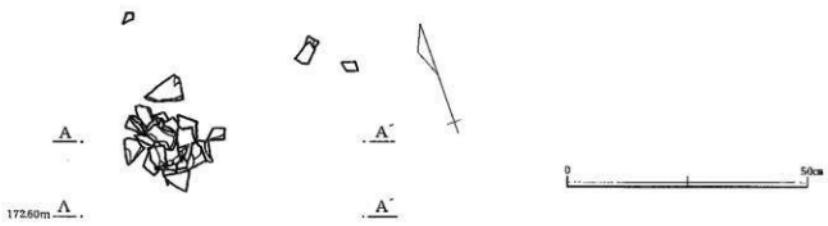
石材集積は径30cmの範囲に剥片34点が積み重なるようにして出土した。石材の大きさは約2.5~6.5cmである。出土した34点中8点は二次加工もしくは使用痕と思われる微細な調整を受けていた。石材はすべてチャートである。



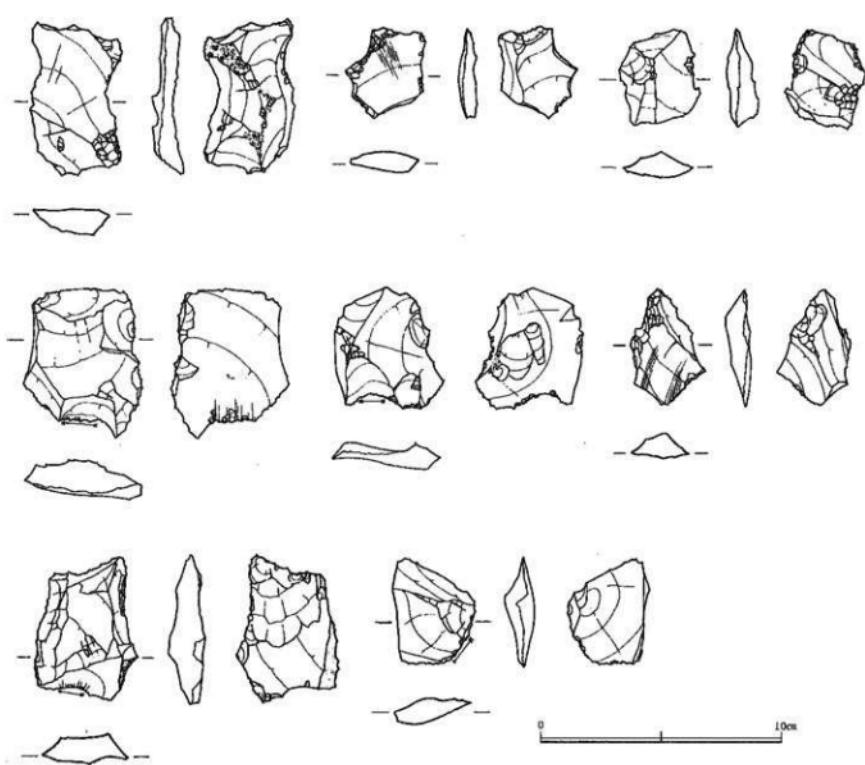
第4図 1区VI層上面遺構分布図 (1/300)



第5図 集石遺構実測図 (1/20)



第6図 石材集積実測図 (1/10)



第7図 石材集積出土剥片実測図 (1/2)

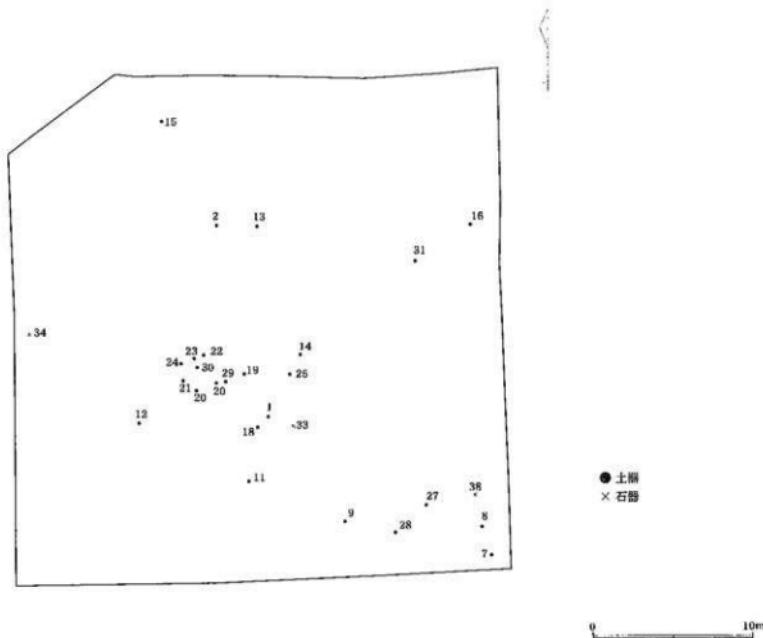
## 2) 縄文時代の遺物

### 土器

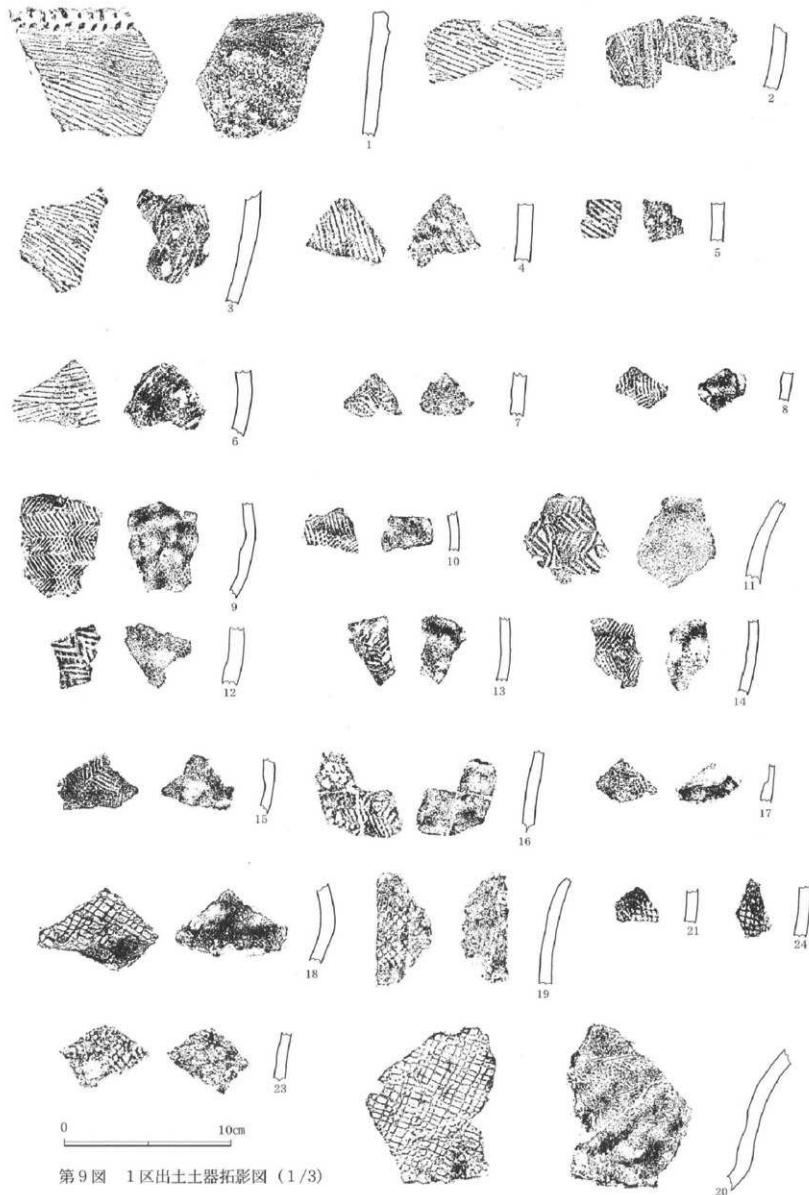
遺物の分布は調査区の中央に比較的多く出土している。出土層位はV層がほとんどで3、6の2点のみがVI層の出土である。また耕作土より5、攪乱より26、32、廃土より4が採集されている。

1~6は円筒形貝殻文土器である。1は口縁部である。直口し端部を平坦にしあげる。口縁端部外面に貝殻腹縁によるキザミ目を施し、それ以下には斜位の条痕を施す。口縁端部内面が横方向のナデ、以下はナデである。2~6は胴部で外面に斜位の条痕を施す。4の内面は縦方行のナデと思われる。

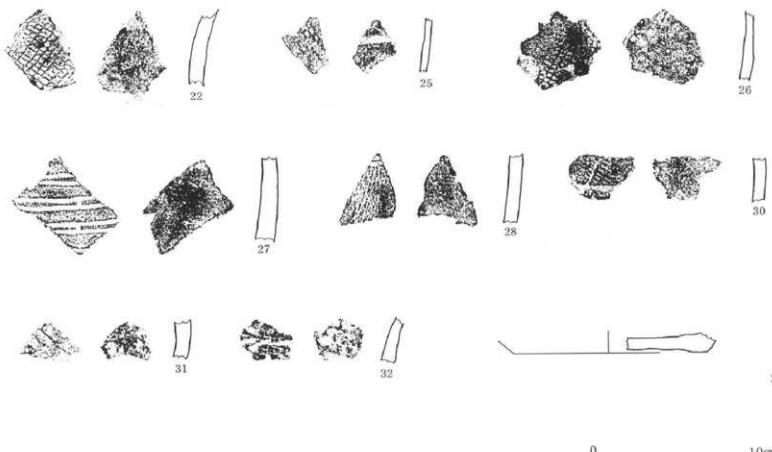
7~16は山形押型文土器である。7は斜位に山形文を施してあるが、風化が著しい。8は外面に斜位の山形文を施す。内面はナデである。9、10は胴部で若干の内湾が見られる。外面は横位の山形文を施し、内面はナデ調整で、指押さえの跡が確認できる。9、10は色調・胎土等より同一固体と考えられる。11はやや外反しながら立ち上がる。外面に弱い縦位の山形文を施す。12は外面に縦位の山形文を施し、内面はナデである。13は外面に斜位の山形文を施し、内面はナデである。外面の風化著しい。14は外面に横位の山形文を施す。内面はナデで指押さえの跡が確認できる。



第8図 1区V層遺物分布図 (1/300)



第9図 1区出土土器拓影図 (1/3)

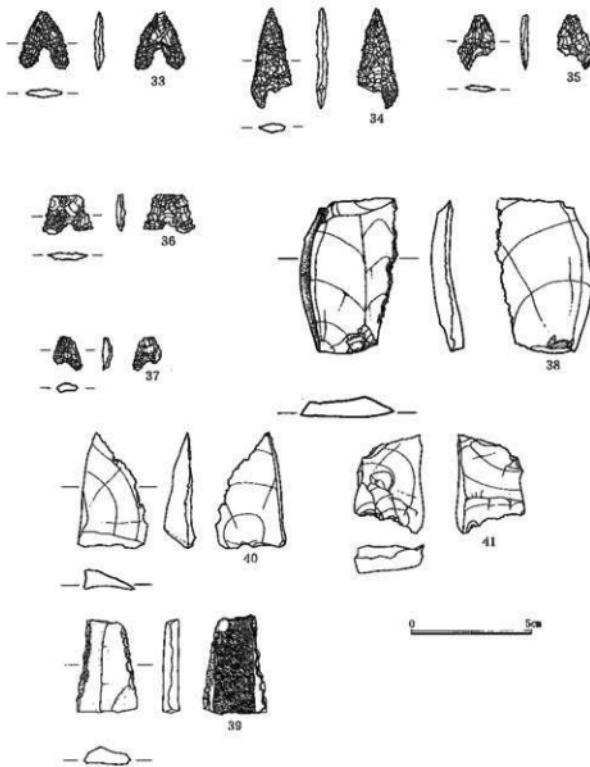


第10図 1区出土土器拓影図 (1/3)

15は外面に斜位の山形文を施す。内面はナデ調整で指押さえの跡が確認できる。16はわずかに外反する。外面は横位の山形文と楕円押型文を施し、その上から一部ナデ消すような調整。内面はナデである。外面の風化著しい。17は斜位の山形文を施し、内面には指押さえの跡が確認できる。内面の風化著しい。

18~26は格子目押型文土器である。18はやや内湾する形状で、屈曲部より上に斜位の格子目文を施し、それ以下はナデ調整がなされている。20は外反しながら立ち上がる。外面は屈曲部より上に斜位の格子目押型文、以下にナデ調整がなされる。内面はナデで指押さえの跡が確認できる。19、21、23~26は外面に斜位の格子目文を施し、内面はナデである。23~26は外面の風化著しい。22はやや外反する部位で、外面は斜位の格子目文を施し、内面はナデである。18~26はいずれもネガティブ押型文と考えられる。

27は外面に半截竹管による数条の平行沈線文を施す。28は網目状燃糸文を一列縦位に施し、その上に沈線文を施す。29は底部であり若干の上げ底である。内面はナデである。30は外面に貝殻腹縁刺突文を施す。31は外面に数条の条痕を施し、内面はナデで指押さえの跡が確認できる。32は縄文を施す。



第11図 1区出土石器実測図 (1/2)

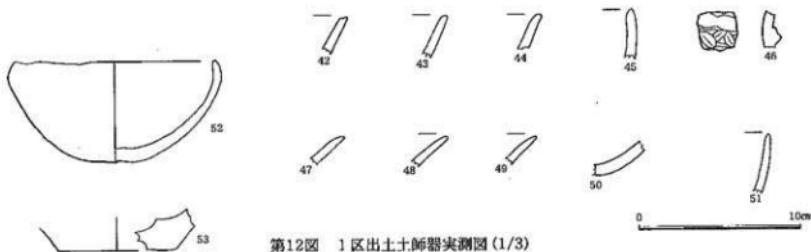
### 石器

石器は石鏨5点、搔器2点、二次加工及び使用痕の見られる剥片2点が出土した。出土層位は33~35、37~38がV層、36がVI層、41が廃土からの採集である。

33~37は石鏨である。石材はすべてチャートである。33は基部の抉り込みの深い鋸形鏨である。34、35は側刃の長い二等辺三角形の無茎凹基鏨である。34は锯歯状の調整が施されている。35は先端部と脚部とが欠損している。36は先端部と両脚部が欠損している。锯歯状の調整が施されている。37は無茎凹基鏨である。先端部と脚部とが欠損している。

38、39は搔器と考えられる。38の石材は頁岩である。39の石材は輝石安山岩で裏面を磨いている。

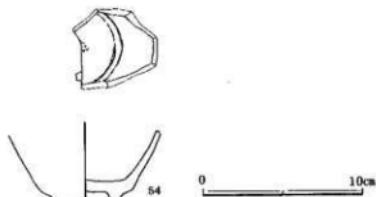
40~41は二次加工及び使用痕のある剥片である。石材は頁岩である。



第12図 1区出土土器実測図 (1/3)

### (3) 古墳時代の遺物

42~45は壺の口縁部と考えられる。42、43、45は内外面共にナデである。44は内外面ともにヘラミガキである。46は壺の頸部と考えられ、布を巻いた棒状工具による刻目突帯を持つ。47~50は高杯と考えられる。47~49は口縁部である。47は内外面ともにナデである。48は内外面ともにミガキを施し、内面には赤彩が残る。49は内外面共にミガキを施す。また内外面共に赤彩が残る。50は底部付近と考えられ、内外面共にミガキを施し、赤彩が残る。51、52は壺である。51は口縁部で外面には一部にミガキが見られる。52は完形の壺で丸底気味の底部からやや直線的に外方に立ち上がり、口縁部において内湾する。内外面共に横方向のミガキを施す。出土層位はアカホヤ上面の二次アカホヤの落ち込みからである。53は底部で若干上げ底気味である。調整はナデである。



第13図 1区出土陶器実測図 (1/3)

### (4) 近世の遺物

54は攪乱からの出土で、肥前系青磁染付筒型椀の底部である。見込みに二重圓線と中心にコンニャク印判が施される。18世紀中頃から19世紀初頭と考えられる。

#### (5) その他の遺構

時期を確定できなかった遺構は土坑4基である。いずれもアカホヤ上面にて検出した。

##### 1号土坑

長径75cm、短径(現存長)28cm、深さ16cmの焼土坑である。東側は天地返し時の攪乱により破壊されていた。遺物は出土していない。

##### 2号土坑

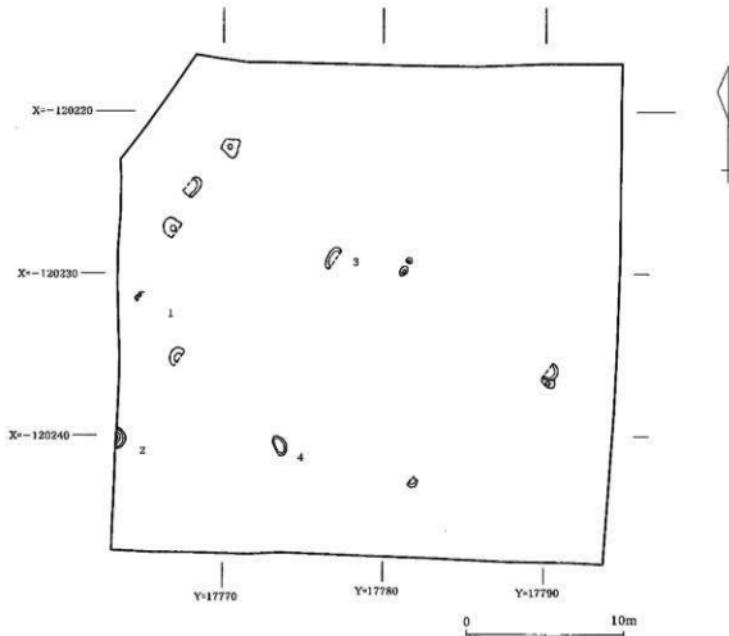
最大長1m28cm、短径(現存長)68cm、深さ38cmを測る。西側は調査区外であるため調査できなかった。二段の掘り込みを呈する。埋土は暗黄褐色土1層であった。遺物は出土していない。

##### 3号土坑

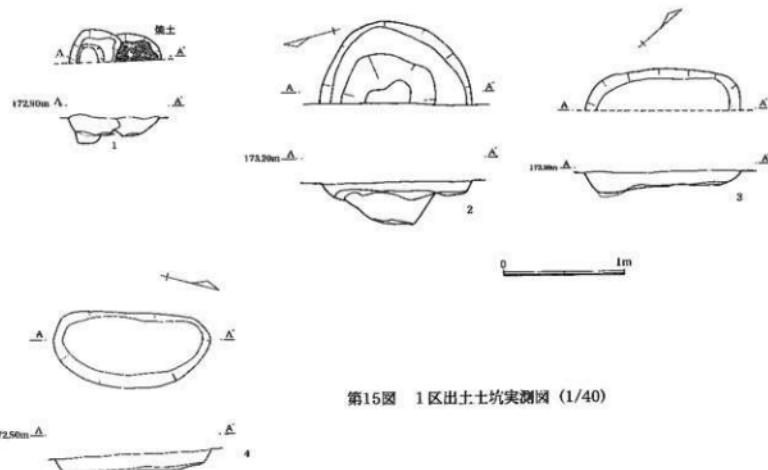
長径1m30cm、短径(現存長)39cm、深さ22cmを測る。底面はほぼ平らである。南側は天地返し時の攪乱により破壊されていた。遺物は出土していない。

##### 4号土坑

長径1m27cm、短径61cm、深さ15cmの長梢円形を呈する。底面はほぼ平らである。埋土は暗褐色土1層であった。遺物は出土していない。



第14図 1区アカホヤ上面遺構分布図 (1/300)

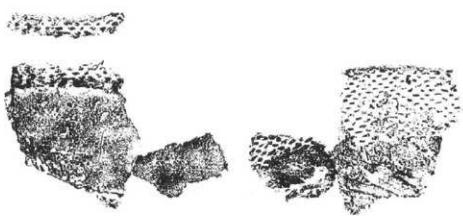


第15圖 1区出土土坑実測図 (1/40)

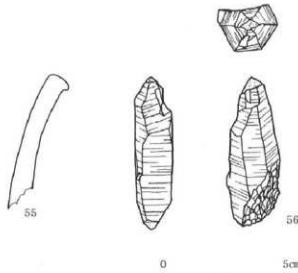
## 2 2区の調査

### (1) 繩文時代の遺物

すべてV層中からの出土である。55は楕円形押型文土器である。わずかに外反し立ち上がる口縁部で、端部に平坦面を作り出し楕円文を施す。口縁部内面には横位の楕円文を施す。外面はナデである。56は水晶の六角柱の結晶である。上下先端に打痕がみられる。



第16図 2区出土土器拓影図 (1/3)



第17図 2区出土石器実測図 (1/2)

### (2) その他の遺構

時期を確定できなかった遺構は土坑3基である。いずれもアカホヤ上面にて検出した。

#### 1号土坑

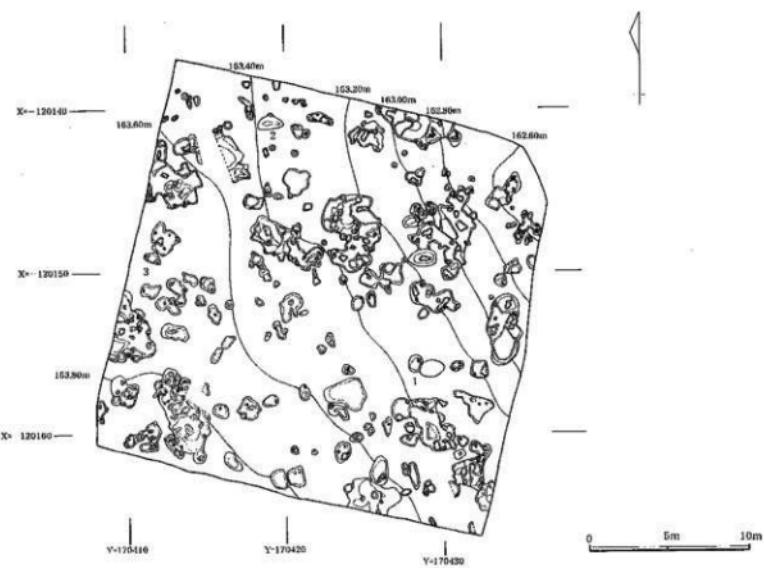
長径1m35cm、短径1m、深さ65cmの楕円形を呈する。発掘調査時に掘りすぎてしまつたため二段の掘り込みを呈しているが、本来、底面は平らであったと考えられる。遺物は出土していない。

#### 2号土坑

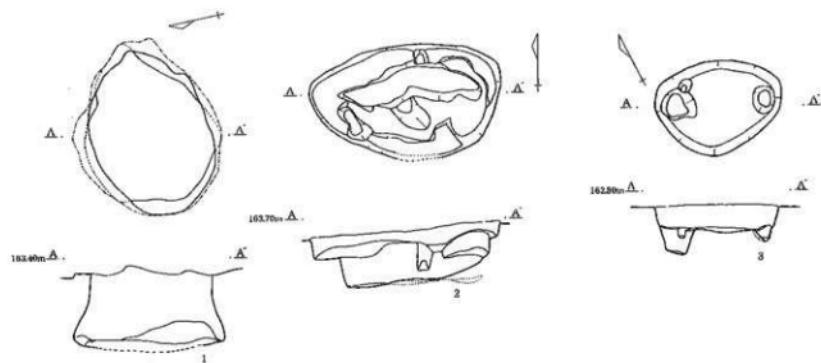
長径1m56cm、短径95cmの楕円形を呈する。二段の掘り込みを有する。遺物は出土していない。

#### 3号土坑

長径1m3cm、短径78cm、深さ22cmの楕円形を呈する。底面は平らで西側、東側にそれぞれピットが伴う。遺物は出土していない。



第18図 2区アカホヤ上面遺構分布図 (1/300)



第19図 2区出土土坑実測図(1/40)

0 1m

### III まとめ

今回の調査は台地の東端と西端とに位置する限られた範囲の調査であったが、遺構は集石遺構1基、石材集積1基、土坑7基が出土し、遺物も縄文時代早期の土器を中心として近世陶磁器まで幅広い出土を見た。

縄文時代の遺構は集石遺構、石材集積が各1基づつ出土した。集石遺構はいわゆる明確な掘り込みと配石とを伴うタイプであった。現在未報告であるが高城町内においても数列の集石遺構が調査されており、データを蓄積していく上の一例として重要であると考えられる。集石遺構は約3mの範囲に礫が散った状態で出土した。中心はその東側に位置していた。周囲に散っている礫は大多数が赤変しており、使用後の廃棄礫かと考えられる。石材集積については県内でも矢野原遺跡等に類例を見ることが出来る。

出土土器は縄文時代早期の土器と考えられる。出土状況は押型文土器が全体の66パーセントを占める。出土層位はほぼ全てがV層からの出土で、貝殻条痕文土器2点のみがVI層からの出土であった。石器については石鏃5点、搔器2点の他、剥片、チップが総計78点出土した。

古墳時代の遺構は出土していない。だが遺物は完形の坏を始め1区からのみ、数点の土師器が出土している。

全体の出土状況として遺構、遺物共に西側の2区に比べ、東側、1区の出土量が圧倒的に多いという結果が得られた。この結果は様ヶ野台地上における土地利用の一端を示していると考えられる。

今回の調査は限られた範囲のみの調査であったが集石遺構、石材集積の出土もあり、様ヶ野台地上の土地利用の一端を窺うことが出来た。この結果を踏まえ、今後の調査に生かしていきたい。

1 「矢野原遺跡」『一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県教育委員会 1995

# 図 版



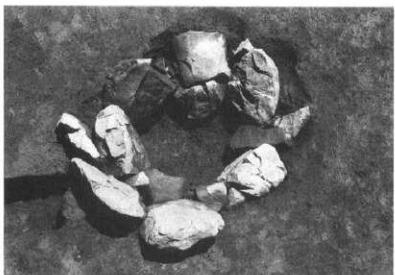
(1) 遺跡遠景（1区西から）



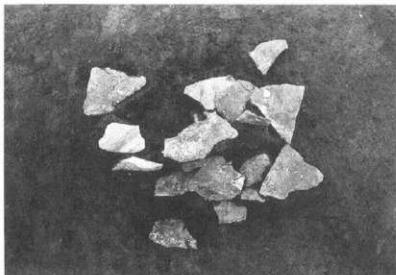
(2) 発掘作業風景



(1) 集石遺構出土狀況



(2) 集石遺構配石出土狀況



(3) 石材集積出土狀況



(4) 1区V層遺物出土狀況



(5) 1区VII層上面全景



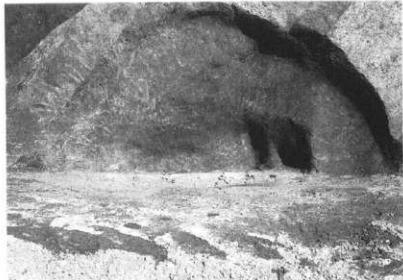
(1) 1区アカホヤ上面全景



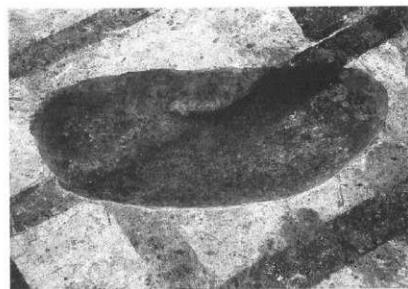
(2) 土師器出土状況



(3) 1号土坑



(4) 2号土坑



(5) 3号土坑



(6) 4号土坑

図版  
4



(1) 全土層 (1区B-C)



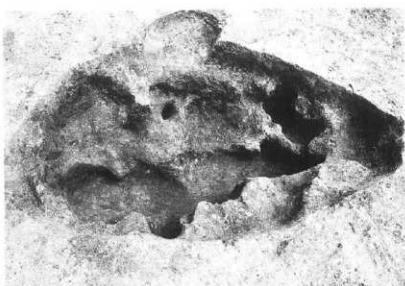
(1) 2区VII層上面全景



(1) 2区アカホヤ上面全景



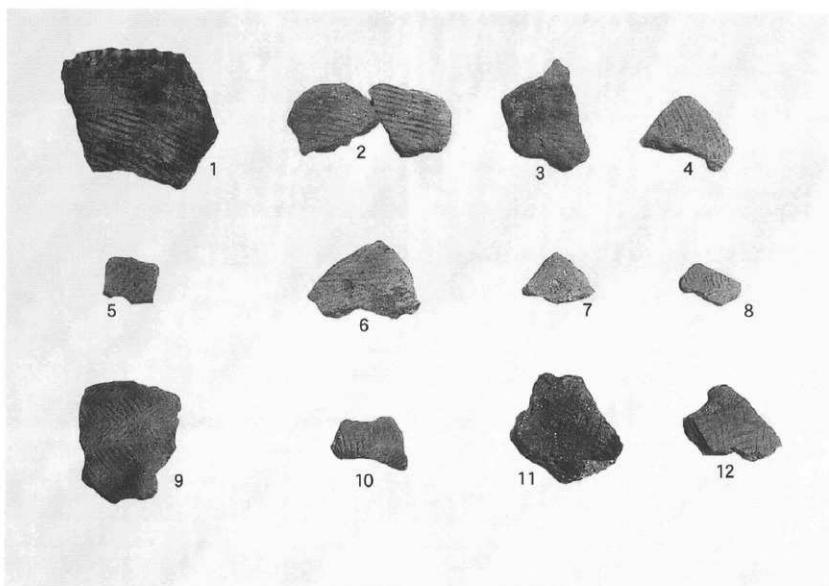
(2) 1号土坑



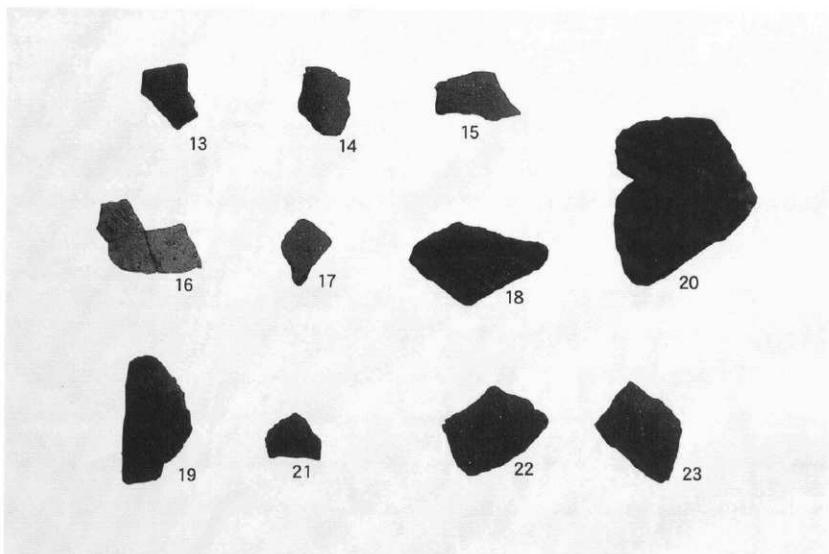
(3) 2号土坑



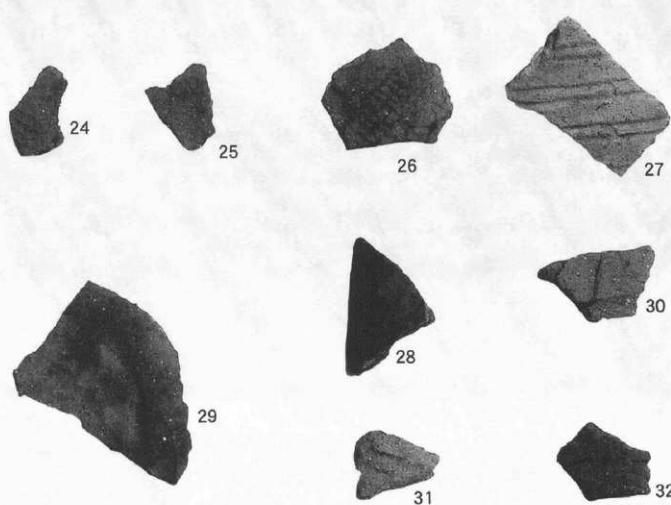
(4) 3号土坑



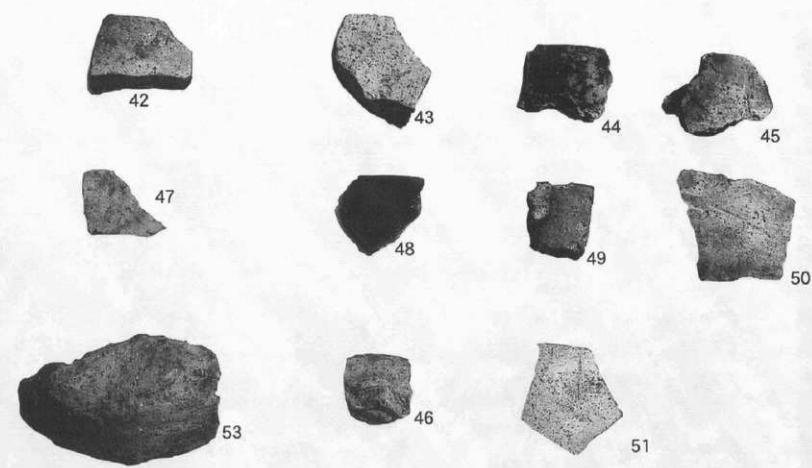
(1) 1区出土土器 - 1



(2) 1区出土土器 - 2



(1) 1区出土土器 - 3

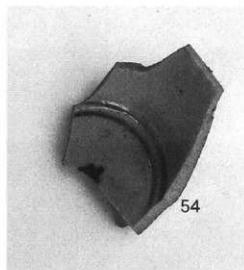


(1) 1区出土土器 - 1



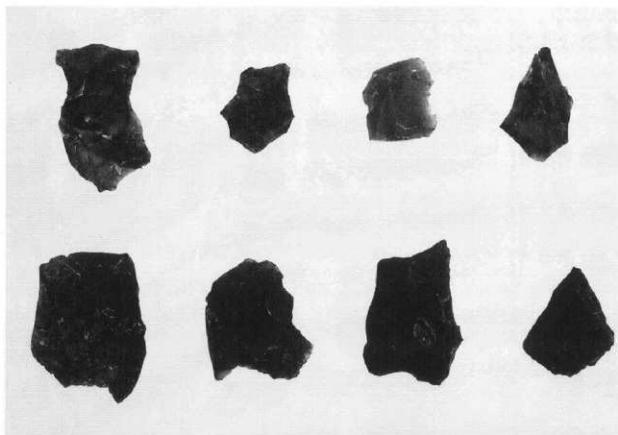
52

(1) 1区出土土師器・2

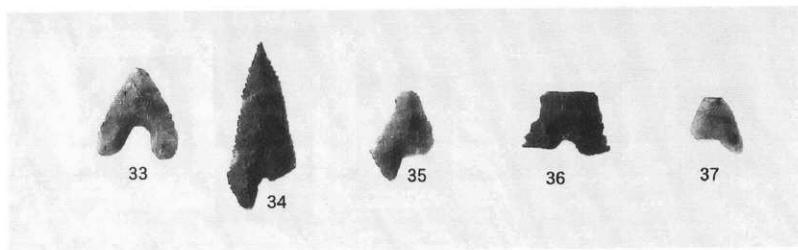


54

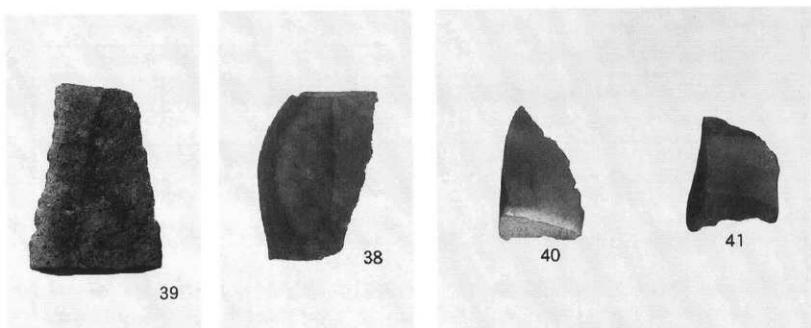
(2) 1区出土陶磁器



(3) 1区石材集積出土剥片



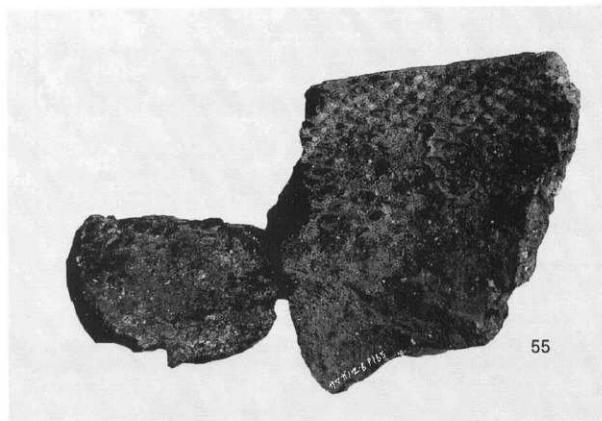
(1) 1区出土石器 -1



(2) 1区出土石器 -2

(3) 1区出土石器 -3

(4) 1区出土剥片



(5) 2区出土石器



(6) 2区出土石器

## 報告書抄録

ふりがな	さまがのいせき							
書名	様ヶ野遺跡							
副書名	九州電力株式会社宮崎幹線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
卷次								
シリーズ名	高城町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編集者名	近沢恒典							
編集機関	高城町教育委員会							
所在地	宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊46番地2							
発行年月日	2002年5月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さまがのいせき 様ヶ野遺跡	たかじょうちょうじ 高城町 おおぞらし 大字四家 あざまがの 字様ヶ野	453439	6012	31° 54' 55" 付近	131° 11' 16" 付近	2001.3.18 2001.7.28	1,770 m <sup>2</sup>	鉄塔 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項			
様ヶ野遺跡	散布地	縄文時代 古墳時代	集石造構 石材集積 土坑	土器 石器				

高城町文化財調査報告書第12集  
様ヶ野遺跡発掘調査報告書

九州電力株式会社宮崎幹線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2002年5月31日 発行

編集・発行 高城町教育委員会  
宮崎県北諸県郡高城町大字穂溝坊46番地2  
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-2317

印刷・製本  
(株)アマガミ印刷  
宮崎県北諸県郡高城町大字穂溝坊114番地4  
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-5851